第1部　身近なところから ― 使う立場

男性トイレにもサニタリーボックスを！

（一社）日本トイレ協会
セミナー調査分析グループ
高橋（たかはし） 未樹子（みきこ）

サニタリーボックスとは

　男性のなかには「サニタリーボックス」という言葉を聞いたことがない人もいるかもしれません。主に使用済みの生理用品を捨てるボックスで、トイレの個室の片隅に置かれています（写真1）。

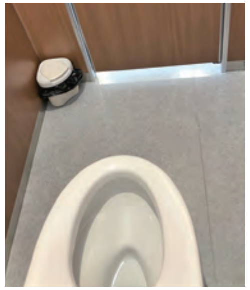

写真1　サニタリーボックス

女子トイレには当たり前に設置されているのですが、男子トイレで見かけることは今まではほとんどありませんでした。

男性トイレにもサニタリーボックスを！

　男子トイレには設置されることがほとんどなかったサニタリーボックスですが、最近は少しずつ設置されることが増えてきています。そのきっかけの一つは、情報番組の司会も務められていたフリーアナウンサーの小倉智昭さんからの発信でした[1]。小倉智昭さんは、膀胱がんの治療で膀胱を摘出されました。そのため、ふとした動作で尿が漏れることがあり、尿漏れパッドを付けた生活をされているそうです。その小倉智昭さんが、男子トイレにはサニタリーボックスがなく、汚れた尿漏れパッドを捨てる場所がなくて困ると発信されました。

膀胱がんや前立腺がんの疾患数増加

　膀胱がん以外にも、前立腺がんが原因で尿漏れパッドなどを使用される方もいます。そのような膀胱がんや前立腺がんに疾患される方は、図1に示すとおり増えている傾向にあります[2]。他にも加齢により尿漏れパッドやおむつを使用される方もいるので、男性トイレへのサニタリーボックスのニーズは今後増えていくのではないでしょうか。

　そこで、（一社）日本トイレ協会で尿漏れなどの排泄トラブルやサニタリーボックスに関する調査を行なったので、紹介していきます。

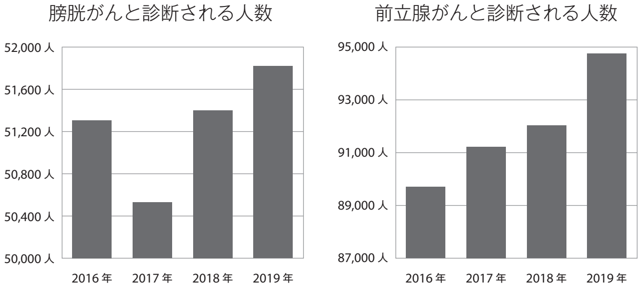

図1　膀胱がん、前立腺がんと診断される人数の推移

CC BY-NC
©2023 高橋 未樹子　この記事はクリエイティブ・コモンズ［表示 - 非営利 4.0 国際］
ライセンスの下に提供されています。　https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/deed.ja

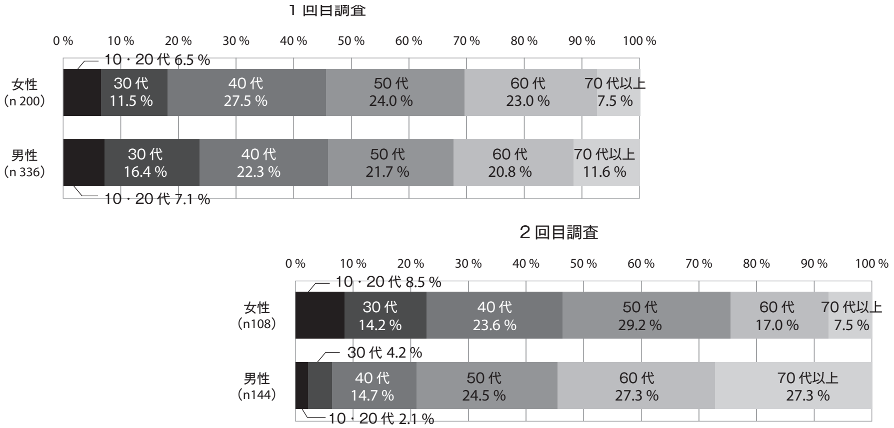

図2　回答者の性年代

排泄トラブルやサニタリーボックスに関する調査について

調査概要

　調査はインターネット調査で、2回行いました。

　1回目は2022年2月1日～2月22日に、尿漏れパッドなどの使用実態を調べるために、主に（一社）日本トイレ協会の会員全般に対して行いました。

　2回目は2022年6月18日～12月14日に、排泄トラブルがある方の外出実態や外出時の課題などを調べるために、（一社）日本トイレ協会の他、がん患者関連団体やオストメイト関連団体の排泄トラブルを抱える当事者とその介助者に対して行いました。有効回答者数は1回目調査が557人（男性336人、女性200人、不明21人）、2回目調査が265人（男性144人、女性108人、不明13人）です。回答者の性年代を図2に示します。

調査結果

1.尿漏れパッドなどを使用する人の割合

　あくまでも（一社）日本トイレ協会の会員を中心に行なった調査結果ではありますが、1回目の調査回答者557人のうち尿漏れパッドやおむつ、カテーテルなどの吸収用具を使用している割合は、男性12.0％、女性16.0％でした。その割合は図3に示すとおり年齢があがるほど増え、70代以上では27.1％の人が使用していました。

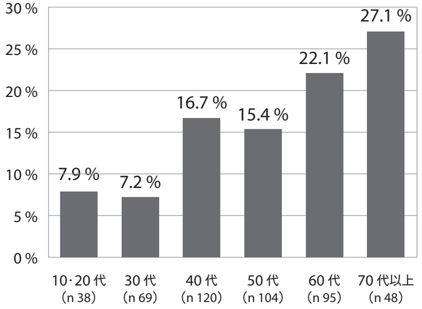

図3　吸収用具を使用している人の割合

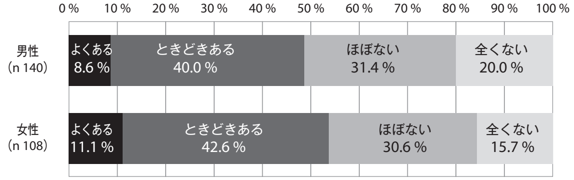

図４　外出を控えた経験

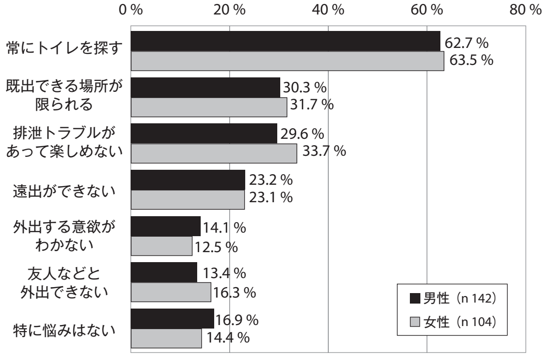

図５　外出時の悩み

２.外出への影響

２回目の調査で、排泄トラブルを抱える当事者・介助者に対して、排泄トラブルを理由に外出を控えたことがあるかを尋ねました。その結果、図４に示すとおり「よくある」との回答が男性8.6％、女性11.1％、「ときどきある」が男性40.0％、女性42.6％と、男女ともに半数前後が外出を控えた経験がありました。

そして、排泄トラブルがあることによる外出時の悩みで最も多かったのは、図５に示すとおり「常にトイレを探す」でした。次いで「外出できる場所が限られる」、「排泄トラブルがあって楽しめない」です。なかには「外出する意欲がわかない」との回答もあり、その割合は男性14.1％、女性12.5％でした。

３.外出時における吸収用具の使用

２回目の調査で、外出時に尿漏れパッドやおむつなどの吸収用具、あるいはオストメイト用品を使用しているかを尋ねると、「常に使用している」が男性48.6％、女性70.4％で、女性のほうが多い結果でした。

使用している人に対して用具の種類を尋ねた結果を図６に示します。男女ともに「軽度失禁パッド・尿漏れパッド」が最も多い結果でした（男性55.8％、女性34.7％）。また、女性は生理用品やおりものシートを尿漏れ対策にも使用している様子がうかがえました。

４.吸収用具の使用で困っていること

吸収用具の使用で外出時に困っていることを、２回目の調査で尋ねました。その困りごと上位７つを図７に示します。男女で最も違いが出た困りごとは「用具を捨てる場所がない」でした。女性で「用具を捨てる場所がない」と答えた人は22.1％でしたが、男性は42ポイント多い64.1％で、男性の困りごとのトップでした。

小倉智昭さんの発信のとおり、このアンケートからも男性トイレにサニタリーボックスがなくて困っている人がいることが明らかになりました。

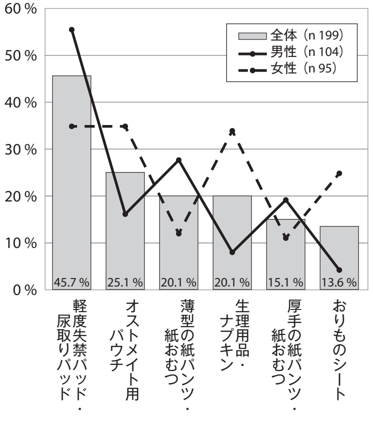

図６　使用している吸収用具

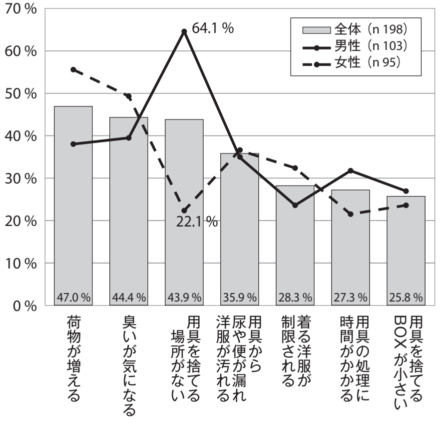

図７　困りごと

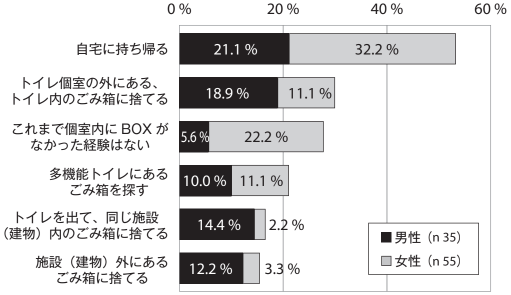

図８　サニタリーボックスがない場合の対応

５.サニタリーボックスがない場合の対応

トイレ個室内にサニタリーボックスがない場合の対応方法を、２回目の調査で尋ねました。その結果を図８に示します。「自宅に持ち帰る」との回答が最も多く男女合わせて53.3％。次いで多かったのが「トイレ個室の外にある、トイレ内のごみ箱に捨てる」でした。なかには「個室内に置きっぱなしにする」「便器に流す」という回答もわずかですがみられ、処分に困っている様子がうかがえます。

さいごに

病気や加齢により、尿漏れパッドやおむつを使用する人は増えてきているのではないでしょうか。

困っている方が発信されることで少しずつ男性トイレにもサニタリーボックスを設置するところが増えてきていますが、まだまだ一部のみの限定的な設置にとどまっています。排泄は尊厳にも関わる大切な行為です。尿漏れパッドやおむつを使用される方が気にせず外出できる環境を、これからも考えていきたいと思います。

参考文献

１）小倉さん、そこまで言っていいんですか…！？がんサバイバースペシャル対談：小倉 智昭×笠井信輔～笠井信輔のこんなの聞いてもいいですか？（2021～），https://www.youtube.com/watch?v=4en52rCmqeM（閲覧日：2021年12月６日）

２）（国研）国立がん研究センター：がん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）